

令和7年度 江戸川区立南葛西第三小学校 学校関係者評価報告書

学校教育目標	生きる力を養う ○確かな学力(笑顔) ○豊かな心（思いやり） ○健やかな体（元気）		目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○一人一人の個性輝く学校 ○自分がされてうれしいことができる子供 ○共に高め合い、共感（共汗）し合う教員集団
前年度までの本校の現状	成果	○組織的学校の運営の定着 ○多様性尊重の取組の充実	課題	○学力向上（教員の授業力向上） ○いじめ対策の徹底 ○働き方改革の実践的取組

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・教員による補習教室を年10回実施、外部委託による放課後補習教室を年90回程度実施 ・東京ベ－シックドリルの活用と分析、検証 ・児童の学習意欲を高める取組の実施	・児童意識調査の学習に関する項目での肯定的回答7割以上 ・ベ－シックドリル学年平均正答率7割以上	40%	60%	D	○教員による補習教室5回、放課後補習教室4～6年、各学年全12回実施。 ●6月の東京ベ－シックドリルの診断テストは、全学年で正答率70%を下回る結果となっている。	C	○教員による補習教室10回、放課後補習教室4～6年、各学年全30回実施。 ●年間2回の東京ベ－シックドリルの診断テストは、全学年で正答率70%を下回る結果となっている。	B	・学力向上に向けた取組が共通理解の下、計画的に実施されている。 ・全国学力調査等の結果を基にさらなる学力の定着につなげてほしい。	・指導の個別化と学習の個性化を意識した授業改善に努める。そのために、各学年の実態を把握し、発問の仕方や進め方等、授業改善を行う。
	○読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学習計画の選定及び並行読書用図書の充実 ・読書科校内OJT研修年1回及び外部講師による研修3回実施 ・学校応援団と連携した学校図書館環境の整備	・図書館を使った調べる学習コンクールへの参加数、前年度より増加 ・児童意識調査の読書に関する項目での肯定的回答7割以上	60%	70%	C	○各教科と学校図書館を連動した探究的な学習活動の実施により、調べる学習コンクールに全学年の児童が参加できた。	B	○各教科と学校図書館を連動した探究的な学習活動の実施により、調べる学習コンクールに全学年の児童が参加できた。	B	・苦手意識が高い児童への指導や配慮等、今後も取組の継続を希望する。	・三小必読書百選を活用したり、各教科の調べ学習で本を用いたりしながら、読書の更なる習慣化を進めていく。
	○個々の違いを尊重し、差別を許さない指導の徹底及び性別、性的指向、障害などの多様性を尊重する教育活動の充実	・福祉を柱とした総合的な学習の時間の充実、地域団体等による出前授業を実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査の差別に関する項目での肯定的回答8割以上	80%	80%	B	○江戸川ボランティアセンターの方々による出前授業を3～5年で実施予定である。	B	○江戸川ボランティアセンターの方々による体験型の出前授業を発達段階に応じて3～5年で実施することができた。	B	・諸機関や地域と連携を図り、効果的に取り組んでおり、今後も取組の継続を希望する。	・各教科と関連付けて、効果的な出前授業を実施していく。
体力向上	○「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・なわとびウィーク年間6週間実施、持久走記録会の実施、長なわ大会の実施 ・体育科の授業改善 ・体力調査の実施、分析、活用	・児童意識調査の運動に関する項目での肯定的回答8割以上	70%	85%	B	○体育科において、全学年で課題解決型の授業展開を行っている。また、タブレットでの動画撮影も取り入れている。	B	○体育科において、年間通じて全学年で課題解決型の授業展開を行うことができた。また、中学年以上はタブレットの動画撮影も取り入れて課題解決に向けて効果的な活動ができた。	B	・休み時間、校庭で元気に遊ぶ児童が多い。 ・授業を通じて体力向上の計画的取組の継続を今後も希望する。特に江戸川土手を活用した持久走記録会は地域を生かした取組でよい。	・系統性をもたせ、継続的な指導を行っていく。
共生社会教育の実現に向けた教	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・SC参加の生活指導夕会の毎週開催、校内研修を年1回実施 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした個別対応会議の開催 ・個別対応ができるエンカレッジルーム及び別室指導補助員の計画的運営 ・副籍交流及び共同学習の設定	・教員アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査で人権に関する項目での肯定的回答8割以上	80%	90%	B	○SCと連携した生活指導夕会を11回実施できた。組織的共有化が図れている。校内委員会にSCも参加することで、児童や保護者の思いに寄り添った情報共有につながっている。	A	○SCと連携した生活指導夕会を28回実施できた。組織的共有化が図れている。校内委員会にSCも参加することで、児童や保護者の思いに寄り添った情報共有につながることができた。	B	・学校組織全体で児童理解に努めており、今後も取組の継続を希望する。	・個別対応の方法等の情報共有を継続していく。
	＜インクルーシブ教育の推進＞ ・特別支援教室やことばの教室との連携による指導の充実	・教員向け研修を年2回実施 ・児童への理解教育を年2回実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査で人権に関する項目での肯定的回答8割以上	80%	80%	B	○教員向け研修（4、7月）実施できた。児童への特別支援教室、ことばの教室理解集会を6月、7月に実施できた。	B	○教員向け研修を年3回実施したり、児童への特別支援教室やことばの教室理解集会を6月と7月に実施したりと啓発活動ができた。	B	・特別支援教育への理解や指導が教員及び児童に図られているので、今後も取組の充実を期待する。	・ゆりのきやことばの教室との連携を引き続き行い、気になる児童がいればその都度情報共有を行う。
子どもたちの健	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・L-Gateの活用	・年3回（6、12、2月）の人権週間及びいじめ防止啓発デー（毎学期）の設定、いじめ防止に特化した授業を年3回実施、いじめ防止対策委員会の設置 ・L-Gateを指導に活用、改善	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査で差別に関する項目肯定的回答8割以上保護者アンケートで肯定的評価8割以上	70%	85%	C	○6月の人権週間をはじめ、道徳の授業等を通じて意識付けを行い、互いを尊重する心を育んでいる。	B	○年間3回の人権週間をはじめ、道徳の授業等を通じて意識付けを行い、互いを尊重する心を育むことができた。	B	・いじめ撲滅に向けた指導をはじめ、いじめの未然防止・早期対応に取り組んでおり、今後も組織的体制の下、取組を希望する。	・生活指導夕会での情報共有を継続していく。また、必要に応じて対策会議を行い、迅速に対応していく。
地域（園）の開かれた学	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・学校日記を毎日更新 ・学期に1回の学校公開実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上	95%	95%	A	○学校日記を毎日更新し、様々な日々の教育活動を発信している。	A	○学校日記を毎日更新し、様々な日々の教育活動を発信することができた。	B	・学校行事や学校公開を通して児童の直向きな姿が多く見られた。	・日頃の教育活動が見えるように、ホームページや学年便り等で情報発信を続けていく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会及び保護者アンケートを実施（12月）及び分析・改善・学校ホームページ公表	・学校評議員及び保護者アンケートで13項目肯定的評価の数値7割以上	90%	95%	A	・学校関係者評価保護者アンケートを12月に実施予定である。	A	・学校関係者評価保護者アンケートを12月に実施し、13項目全てで目標値を達成できた。	B	・保護者や地域の意見に耳を傾け、改善に努めている。今後もより良い学校づくりを期待する。	・学校評議員の方々が評価しやすいように、ホームページで日頃の情報発信を継続していく。
特色ある教育の展開	＜保幼小中連携教育の推進＞ ・「保幼小中連携教育構想」及び児童生徒間の交流の充実	・教員間の交流会年1回実施、部活動体験や中学教員による出前授業の実施、小中必読書百選の取組 ・保育園児と1年生の交流活動や行事参観	・児童意識調査の中学進学に関する項目で肯定的評価9割以上	80%	80%	B	○中学校だけでなく、近隣の保育園の教員間交流の6月に実施し、情報の共有化が図れた。今後も部活動体験を7月、体育大会に向けた交流学習を10月、合唱コンクールハルカル鑑賞を10月に実施予定である。	B	○中学校だけでなく、近隣の保育園の教員間交流の6月、部活動体験を7月、体育大会に向けた交流学習を10月、合唱コンクールハルカル鑑賞を10月に実施し、情報の共有が図ることができた。	B	・保小中連携の交流活動が充実してきている。円滑な保小中の接続を期待している。	・現在行っている活動を継続し、年間を通じて交流する機会を行う。
	＜SDGs教育の推進＞ ・地域の歴史や特色を生かした海洋教育、環境教育の推進	・大学教授やNGO団体メンバー、地域の人材等を講師とした授業を実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上	80%	80%	B	○食育と関連したSDGs教育を低学年で6月に実施した。葛西臨海及び地球温暖化防止を考える学習を10月に実施予定である。	B	○食育と関連したSDGs教育を低学年で6月に実施した。また、葛西臨海及び地球温暖化防止を考える学習を10月に実施し、学年の状況に応じて活動できた。	B	・地域に根差した教育活動に取り組んでおり、今後も取組の継続を希望する。	・各学年の年間指導計画に照らし合わせながら、効果的な人材を活用する。